## 10 月 3 日のメッセージ

聖書：ヘブライ人への手紙　11：　17－22、29－31

# 「信仰によって」

聖書には様々な奇跡物語が描かれています。その一つ一つの場面と向き合う時、「念ずれば通ず」という言葉が浮かんできます。信仰者たちは、どのようなことも神に願い、神に祈り、そして神に道を備えられてきました(「信仰によって……」ヘブライ人への手紙 11:17-22、29-31)。神に守られて歩むイスラエルの姿は、正直、うらやましくもあります。そして、我が身を振り返れば、なんと願い通りにならなかった人生だろうと悲しくもなります。

イスラエルの人々が一斉に鬨の声を上げると、城壁が崩れ落ちます(「信仰によって、エリコの城壁は、人々が周りを七日間回った後、崩れ落ちました。」ヘブライ人への手紙 11:30、「角笛が鳴り渡ると、民は鬨の声をあげた。民が角笛の音を聞いて、一斉に鬨の声をあげると、城壁が崩れ落ち、民はそれぞれ、その場から町に突入し、この町を占領した。」ヨシュア記 6:20)。荒唐無稽な出来事よと、初めてこの物語に触れた時に思ったものでした。イエスがいちじくの木を枯らす場面も同じです(「道端にいちじくの木があるのを見て、近寄られたが、葉のほかは何もなかった。そこで、『今から後いつまでも、お前には実がならないように』と言われると、いちじくの木はたちまち枯れてしまった。」マタイによる福音書 21:19)。科学的にあり得ないと。これらの物語は絵空事だから、自分とは関係ない、そう思おうとしたこともあります。

しかし、イエスは言われます。「信仰を持ち、疑わないならばできる」と(「信じて祈るならば、求めるものは何でも得られる。」マタイによる福音書 21:22)。

どこまでこのイエスの言葉と真剣に向き合ったでしょうか。どこまで神の約束を疑わずに歩んでこられたでしょう。どこまで真剣に、神に祈り求めたでしょう。不安の中にある時、「信仰ある人を守る」との約束をどこまでしっかりと受け止めていたでしょう(「主の慈しみに生きる人はすべて、主を愛せよ。主は信仰ある人を守り／傲慢な者には厳しく報いられる。」詩編 31:24)。どこかで他人事のように捉え、祈る前から諦めていなかったでしょうか。

「信仰によって」の「信仰」とは、どのような状況に置かれようとも、すがるのは神のみ、頼るのは神のみ、従うのは神のみという姿勢のことです。自分の全てを神に委ね、神と共に真摯に歩もうとする生き方です。

世界宣教の日、私が信じているもの、私が伝えようとしているものは何かと改めて見つめ直します。滅ぼし尽くすべきものを求めてはいないでしょうか(「あなたたちはただ滅ぼし尽くすべきものを欲しがらないように気をつけ、滅ぼし尽くすべきものの一部でもかすめ取ってイスラエルの宿営全体を滅ぼすような不幸を招かないようにせよ。」ヨシュア記 6:18)。神の約束ではなく、今、この瞬間の安寧だけを求めていないでしょうか。

背中を追うべき信仰者の姿は目の前にたくさんあります。もう一度、主の道を歩む決意を新たにしましょう。